

チャレンジ国体

第39回国民体育大会「わかき国体」で使用されるロードレースのコースを事前にチャレンジしてみようという企画です。

奈良県協会がお手伝いしてくれます。その日は59年5月6日(日)で、前泊のお世話もしてくれます。参加費は1,500円で当日持参のこと。参加費は記念品(国体ロードマップ入りTシャツ)とコース地図、保険料です。

走行は136Kmのフルコースと80Kmのどちらでもよい。

希望者は2月29日までに、往復ハガキに住所、氏名、年齢、性別、電話番号と前泊の有無、Tシャツの大・中・小を記入して

〒634 奈良県橿原市新田町16-14
安東 昭夫(奈良県サイクリング協会)まで申込んで下さい。

大阪の青木氏文部大臣表彰

大阪サイクリング協会副会長・理事長の青木泰三氏は、永年に亘る社会体育活動の功績により、昨秋文部大臣表彰を受賞された。氏は、現在大阪薫英女子短大の教授をつとめJCA理事でもある。

第28回全国サイクリングラリーが群馬県協会の主管により開催されます。

期日 昭和59年7月28日(土)～
29日(日) 1泊2日

集合 群馬県吾妻郡草津町
総合体育館

開会・閉会 同上

宿舎 草津温泉各ホテル旅館

コース 長野原、三原コース(初
中級者)牧水コース;中之
条～暮坂峠経由(上中級者)
浅間コース;中軽～浅間高
原～三原コースへ(上中級
者)志賀高原コース;中野
駅～志賀高原～白根山経由
(上中級者)

定員 1,800名

参加費 10,000円(1泊3食、記
念品、傷害保険その他)

申込 4月20日までに各県協会へ
前泊後泊 大会前後泊をする人は
往復ハガキに氏名、住所、
電話番号、男女別および人
数を記入して6月30日まで
に下記へ申し込む

草津温泉旅館協同組合
〒371 群馬県吾妻郡草津町

39 TEL 027988-3722

その他 (1)大会参加中の事故は、
加害被害とも各人の責任とし、交
通傷害保険の給付以上の保償には
応じられない。

(関係諸団体)

◎青少年リーダー交流会

県下の青少年団体の中堅のリーダーが一掌に会し、意見交換、交歓を通し各団体の青少年活動の実情を学ぶとともに相互の親睦を図り、もって青少年活動の活発化に資するものです。

今年度は2月19日～20日にかけて、鎌北湖ユースホテルで開催されます。SCAからは丸山利昭氏が参加します。

◎青少年の善行表彰について

このたび社団法人日本善行会(会長 林敬三)から善行青少年の推薦依頼がありました。核当者がありましたら協会事務局まで申し出て下さい。

△推薦要領

対象年齢：おおむね30歳未満

国籍：問いません

取扱い範囲：①日本全国で行われた善行為 ②日本国内居住者が外国で行なった善行為

内容：あらゆる善行為

時期、期間：(1)一時的善行為(防犯、防火、人名救助)は原則として昭和58年3月以降のもの(2)継続的善行為は現在継続中のものか、昭和58年5月まで継続していたもの(3)継続期間は行為の種別・内容によって異なるも、特殊のものを除き数年間にわたり常時又は定期的に継続されているもの

*その他詳しい事は、協会事務局まで問い合わせ下さい。

◎青少年のつといのご案内

第10回を迎えた浦和市の青少年のつといが3月4日(日)午前の部10時から、午後の部1時から浦和市民会館ホールで開催されます。

今回は、市制施行50周年を記念して盛大に行なわれます。会員の方々は、お誘いあわせの上ご参加下さい。

◎浦和市制施行50周年の表彰について

去る2月11日、浦和市制施行50周年の記念式典が市民体育館で開催されたが、席上市の発展等につくした1417名に感謝状と記念品が贈られた。協会関係者として次の方が表彰を受けました。おめでとうございます。星野 清氏、杉山 弘氏、渡辺広次氏。

◎ウォークラリー教室の案内

浦和市ウォークラリー連盟主催のウォークラリー教室が2月26日(日)9:30～12:30、浦和立コミュニティセンター資料室で開催されます。「ウォークラリー」についての講義と実技が行われます。参加費は無料ですが終了後会食(500円)をします。全員歩きますのでそれなりの服装で参加して下さい。

◎コミュニティ研究集会

埼玉県コミュニティづくり県民運動推進協議会主催の研究集会に星野 清氏が参加します。

→ FOCUS ←

SCAニュース12月、1月号でお知らせした富永昌紀君は1月15日(新聞報導16日)、大平山近くの久保谷で地元ハンターによって遺体で発見されました。現場検証によると、谷より東側約60m上の屋根より斜度70度程の沢状の岩場を転落したものとのこと。

富永君は天目山を越えて奥多摩方面にでる予定だったようだ、地図に不案内なため道い迷い、登山者も近づかない「けもの道」に入り込み、自転車をかついでさまよっている内に、足を踏みはずしたものと推定される。

19日には秩父地方にも雪が降り、もし発見できなかったら5月の雪解けまで遺体は見つからなかっただろう。「皆さんのおかげで雪の降る前に帰って来ることが出来て昌紀は幸せです。」と言った母親のことが痛く心に残る。

彼の死は我々に数々の教訓を残してくれた。山岳サイクリングを行なう時は、ち密な計画を立てることはさる事ながら、地図だけによらず多くの人の情報を参考にすること、単独行動は絶対に慎むべきであり、(3人以上が望ましい)万一のことを考えて多少の食糧と防寒着(冬にかぎらず)の携行はかせない。そして行先を家族又は知人には知らせておく事。

二度とこのような悲劇を起こさない為にも我々は彼の死を無駄にしてはならない。

最後に富永昌紀君のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(文責 渡辺広次)

『会員紹介』



原田知治
九関島CC
会員証番号1513
JCAリーダー、
JCA講師
協会副理事長

昭和37年、自転車会社に就職し、先輩同僚と日帰りサイクリングを楽しんでいた。本格的には昭和38年夏の東海道1人旅(900m)、翌39年高山・高山廻り大阪ツアー、そして翌40年の北海道横断1人旅等であろう。当時サイクリストには輪行制度がなく、苦勞して輪行したことが思い出される。昭和51年開催の第20回全国ラリーに参加し引続き、
「我が心の古里をたずねて」と題した九州縦断サイクリングを行い自分の出生地、疎開地そして小中学時代の思い出の地を訪ねた事が一番心に残るサイクリングだった。(重負担) そろそろ地域に根ざしたサイクリングをとも考えつつも、マイペースでサイクリングを楽しみたい。

“横顔”(文責 渡辺広次)
指導委員長としてここ数年、協会行事の企画、運営にたずさわっているが、なかなかの手腕家である。物事に意欲的にとり組み、特にメカについては職業がらとはいえ詳しい、九州男児らしく学歴も面白い??であるが、家族思いの人でもある。何度か娘さんをサイクリングに誘って来ているが、奥さんも誘ってファミリーサイクリングにも力を入れて欲しい。念願のマイホームを手にして、ひと足落るといところだが、これからも協会のために頑張ってもらいたいものである。

◀編集後記▶

ちもふい冬はもうけっこう、早くこいこい春よこい。サイクリストが待ってるぞ!!